

不安で  
たまらなくなる。  
(87歳女性)

娘が「今までやってきたこと  
でしよう」と言う。しかし頭が  
混乱して、いつも頭が白く  
なっている感じ。  
(90歳女性)

ゆ、く、り話して  
もらえると、分かる  
(80歳 男性)

何で怒るの？  
忘れたんだから  
優しく言ってほしい。  
(82歳女性)

しあわせだ。  
あんたのおかげです。  
(87歳 男性)

まだ早かった。家族に  
迷惑をかけてしまう。  
親が亡くなってからで  
良かった。(68歳女性)

これらの言葉は、担当ケアマネジャーを通じて寄せられた  
「認知症と生きる」当事者たちの声です。  
認知症になったからといって、何もかも分からなくなる訳ではありません。  
日々、喜びや悲しみ、忘れていくことへの不安など、さまざまな感情を抱いて暮らしています。  
しかし、その思いを言葉で上手く表現できない時もあります。  
何を伝えたいのか、ゆっくりとその声に耳を傾けてください。  
1人でも多くの人が認知症を正しく理解し、温かい心で支え合える地域であれば、  
誰もが安心して暮らせる国見町になるのではないのでしょうか。



1. 日とくにみの利用者さんと施設スタッフ 2. 今日のおやつはおしるこに決定！ 3. その日の活動写真が入ったその人だけのお便りが配布されます 4. スタッフも一緒に縄仕事



### 利用者に寄り添うこと—— 通所介護日和くにみの取り組み

#### 主体性を大切に



通所介護日和くにみ相談員の声  
生活相談員  
遠藤 碧さん

通所介護日和くにみは要介護1  
から5までの約90の方が利用し  
ています。ここに来ていることを  
認識できる方、短時間で忘れて「家  
に帰る」と訴える方などさまざま  
な方が利用しています。

ここでは、5人ほどの少人数グ  
ループを作って、一人ひとりの状  
態に合わせた作業ができるように  
支援しています。例えば、お昼ご  
飯を作る時は、野菜の皮を剥くグ  
ループ、野菜を切るグループ、火  
を使用して調理をするグループな  
どに分かれて作業に取り組んでい  
ます。今日は、施設の畑でみんな  
で育て、収穫した里芋を使って、  
里芋の田楽を作りました。実は食

事のメニューも自分たちが食べた  
いものを自分たちで決めているん  
ですよ。

#### その人らしく

認知症を患っていても、その時  
もつ能力を最大限に発揮し、その  
人らしく生活していくことができ  
ます。ここでは必ずこれをしなく  
てはいけないということはありません。  
せん。その人らしく、今まで生活  
してきた環境をなるべく変えずに  
過ごせるよう、その人の生活に根  
付いたケアを心掛けています。

#### 当たり前の存在へ

認知症の方と関わるうえで、そ  
の人がどのように人生を歩み、暮  
らしてきたか考えていくことが重  
要です。それはその人の根っこで  
あり、それを起点に考えることで  
症状や行動の理由が分かり、対応  
の道筋が見えてきます。  
デイサービスは体が悪くなった  
から来る場所ではなく、その方の  
生活をそのまま続けるための場所  
です。特別なものではなく、地域  
にあって当たり前の存在であるこ  
とを地域の方に知ってもらえると  
嬉しいですよ。



安藤 ヨシさん

日和に通うようになって10  
年になりました。この10年間  
は本当にあつという間で、私  
にとってここは生きがいの場  
所です。職員の方はどんな時  
も温かく笑顔で接してくれて、  
安心して過ごせます。

#### 利用者の声



吉田 隆夫さん

日和は、自分のことはでき  
るだけ自分でできるように手  
伝ってくれます。ここでは、い  
ろいろな活動や作業があつて、  
昔を思い出しながら楽しく取  
り組んでいます。